



会計事務所様の業務形態にあわせて、
2つのエディションの経理データステーションからお選びいただけます。

対応表

会計ソフト	エディション	経理データステーション 2010年版	経理データステーションJ 2010年版
弥生会計		○	○
勘定奉行21		○	○
PCA会計		○	○
財務応援		○	○
JDL IBEX会計		×	○

※対応バージョン

・弥生会計09/10 ・勘定奉行21Ver.5 ・PCA会計9/10 ・財務応援Ver7.7/8 ・JDL IBEX会計9/10

本ソフトは会計ソフトから出力可能なテキストデータで変換処理を行います。

出力される内容によって正常に変換できない場合があります。各ソフト間での変換処理が可能かは購入前に弊社までご相談ください。

価格

価格種別	エディション	経理データステーション 2010年版	経理データステーションJ 2010年版
本体プログラム ※1ライセンス		98,000円	198,000円
追加ライセンス (1ライセンスにつき)		9,800円	19,800円
年間保守契約 (バージョンアップ含む)		38,000円	78,000円

※電話でのサポートはご購入後3ヶ月間無料でご利用頂けます。 ※価格はすべて税込です。

動作環境

対応OS	Microsoft Windows 7/Vista/XP ※WindowsXPは、ServicePack2以上が必要。 ※64bitOS上では、32bitアプリケーションとして動作します。	ハードディスク	100MB以上 ※別途 .NET Framework用の領域(300MB)が必要。
CPU	1GHz以上	ディスプレイ	解像度1280×1024ピクセル以上 色数65,536色以上
メモリ	1GB以上		

最新情報は製品ホームページ(<http://www.datastation.co.jp/>)をご覧ください。

- ロゴは、弊社 および、またはその関連会社の商標です。
- その他記載されている会社名、製品名、ロゴ等は各社の登録商標または商標です。
- 製品の仕様は、予告なく変更される場合があります。予め、ご了承ください。
- このカタログの内容は 2010 年 10月現在のものです。

製品に関するお問合せ

- お問合せ窓口
TEL 03-5368-3041
(9:00~12:00、13:00~18:00 ※土日祝日、弊社指定休業日を除きます)
電話のおかけ間違いにはご注意ください。
- E-Mail info@seisho.com (24時間受付)

株式会社セイショウシステムテクノロジー
〒160-0015 東京都新宿区大京町23-3 四谷オーキッドビル4F
Tel : 03-5368-3041 Fax : 03-5368-3941
URL : <http://www.seisho.com/>

●お問合せ先

経理データステーション2010シリーズ

主要各社の会計ソフトの仕訳データを
異なる会計ソフトの仕訳データへ自動変換



経理データステーション2010シリーズ

コストを抑え作業効率を最大化。より柔軟に、より使いやすく。

経理データステーションとは

DATA→DATA

最近、会計事務所様と顧問先で別々のメーカーの会計ソフトを使うことが多くなりました。そんな中、多くの会計事務所様から聞こえてくるのが

「顧問先が自分のソフトで入力した仕訳データを、結局は事務所のソフトに再入力しなければならない。非常に手間だ。」

「事務所で顧問先のソフトを買い揃えることにしたが、購入費用と毎年の保守料金がばかにならない。」

「顧問先が使っているソフトを買ったが、操作方法をいちいち覚えるのが大変。仕事の効率が下がる。」

といったお悩みです。

経理データステーションは、会計事務所様が抱えるこのような問題を解決するために開発されました。

このソフトをお使いいただければ、主要各社の会計ソフト(※)の仕訳データを、他メーカーのソフトの仕訳データに自動で変換できるようになります。 ※弥生会計、勤定奉行、PCA会計、財務応援、JDLIBEX

経理データステーション導入の3つのメリット

DATA→DATA

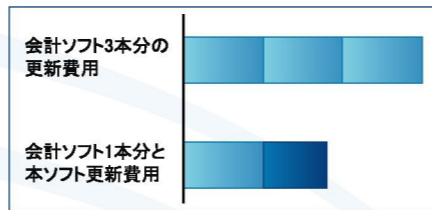
① データ再入力の手間を省けます

例えば、事務所は財務応援、顧問先は弥生会計を利用していた場合。事務所が弥生会計を買わなければ、財務応援に顧問先の仕訳データを手入力しなければなりません。そんなとき、経理データステーションがあれば、弥生会計の仕訳データを財務応援の仕訳データに自動変換できます。あとは、そのデータを財務応援にインポートするだけです。



② 会計ソフトにかかるコストを削減できます

顧問先に合わせて会計ソフトを購入すると、毎年の保守費用の負担が大きくなってきます。経理データステーションを導入すれば、使うのは事務所用の会計ソフトと経理データステーションだけです。顧問先ごとにソフトを揃えた場合に比べて、保守費用を大幅に減らせます。



●更新費用のイメージ図

③ 使い慣れた事務所の会計ソフトだけで処理できます

顧問先それぞれのソフトを事務所で用意した場合、各々のソフトの操作方法を覚えなければなりません。そして、処理する顧問先が変わるごとに、別のソフトを操作します。このことが業務効率に与える影響は甚大です。顧問先の決算処理が集中する時期であればなお、1分1秒の遅れが積み上がって、事務所全体の業務に支障が出てしまいます。経理データステーションさえあれば、データ入力操作するのは事務所用のソフトだけで済むようになります。もう、他メーカーのソフトを使う必要はありません。



経理データステーションの流れ

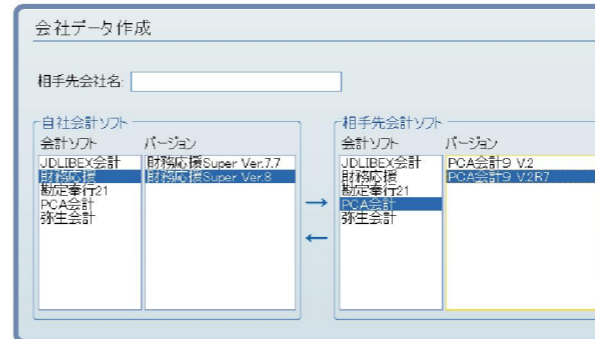
DATA→DATA

お客様の声をフィードバックし、より短時間でより分かりやすくデータを変換できるように操作画面と操作方法を一新。新しい操作方法を採用したことにより柔軟かつ効率よく変換作業ができるようになりました。

① 会計ソフトから仕訳データをテキストデータとして書き出します。



② 「経理データステーション」を起動して、変換元・変換先ソフトを選択します。



会社ごとに設定が可能です。

③ 仕訳(テキスト)データを「経理データステーション」に読み込みます。



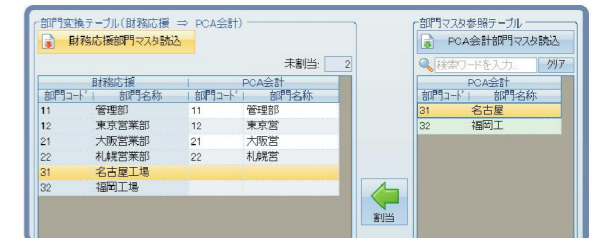
①で書き出したテキストデータを本ソフトに読み込みます。

④ 勘定科目など変更している場合は、勘定科目を割り当てます。



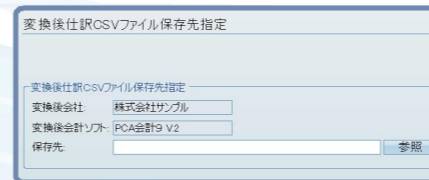
仕訳データで使っている勘定科目だけを割り当てます。

⑤ 補助科目や部門コードを使用している場合は、それらを割り当てます。



双方の会計ソフトから補助マスタ・部門マスタを取り込むことができます。

⑥ 設定された内容をもとにデータを変換します。



変換された仕訳データを任意の場所に作成します。

あとは変換先の会計ソフトで

変換されたデータを読み込むだけ!!